

取組名	地域連携による紫尾山ブナ林の生物多様性保全・保護対策の推進	
署等名	北薩森林管理署	
取組を行う背景・経緯	<p>紫尾山は、鹿児島県出水市とさつま町界に位置する地域最高峰(1,067m)の山で、林相は、上層木にブナ、アカガシ、シイ類及びモミ等の大径木、下層木にツバキ、カエデ等が自生する針広混交の天然林となっており、地域のシンボルとなっている。</p> <p>この紫尾山の植生を代表するブナ林は、薩摩半島における南限とされ、冷温帯のブナが、暖帯林のカシ、シイなどと共存する貴重な生態系を有している。</p> <p>しかしながら、近年何らかの要因により枯損、倒木する箇所が散見される状況にあり、さつま町長、さつま町議会議長及びさつま町森林林業活性化促進議員連盟会長からブナ林の保全・保護等に係る要望がよせられていた。</p> <p>このことから、地域と連携して、この紫尾山のブナ林の生物多様性を守る活動に署を挙げて取り組むこととした。</p>	
取組の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 ブナ林の自然再生対策の実施 2 自然再生状況モニタリング調査を実施 3 森林とのふれあいの拠点整備を実施 	
期待される効果・成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 ブナ南限に近い紫尾山の、生物多様性のある豊かな生態系を、保全・保護することができる。 2 地域連携による取組で、北薩地域における国有林の存在感を高める効果が期待できる。 	